

『JAグループ・行政の総合支援』による

『大規模農業法人の経営発展』支援

～ 地域農業の維持・発展に向けて ～

愛知県信用農業協同組合連合会（JA愛知信連）

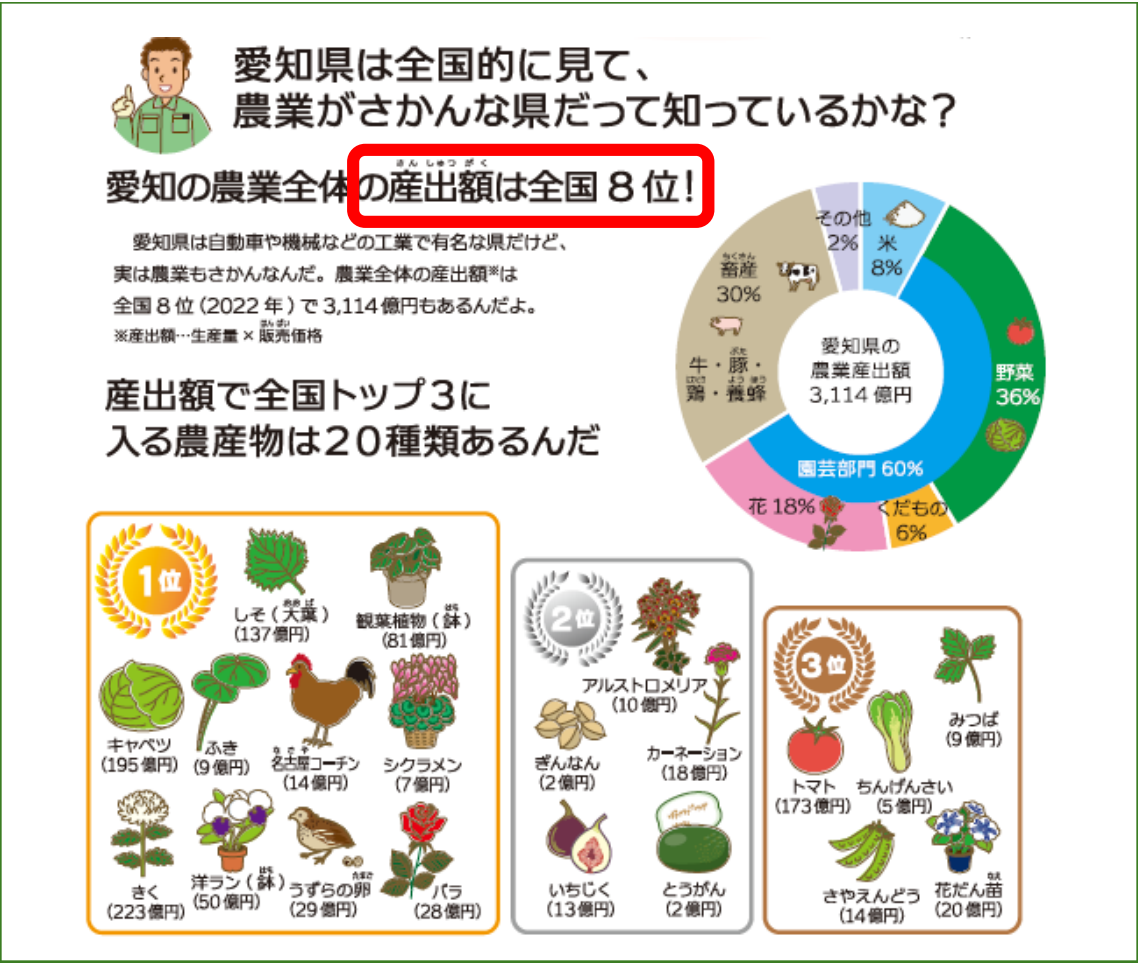
食農法人営業部 コンサルティンググループ 水谷慶太

- 愛知県の農業、組織概要、支援体制
1 組織概要
- 支援対象農家、支援の全体像、支援の流れ
2 支援の全体像
- GAPとは、取組目的、全体像、農場整備、研修
3 JGAP認証の取得支援
- 全体像、JAグループの特徴
4 JA総合事業支援
- ESG金融に対する課題、苦勞・工夫した点、関係機関との連携
5 支援のポイント
- 支援の成果、今後の展望
6 支援の成果・今後の展望

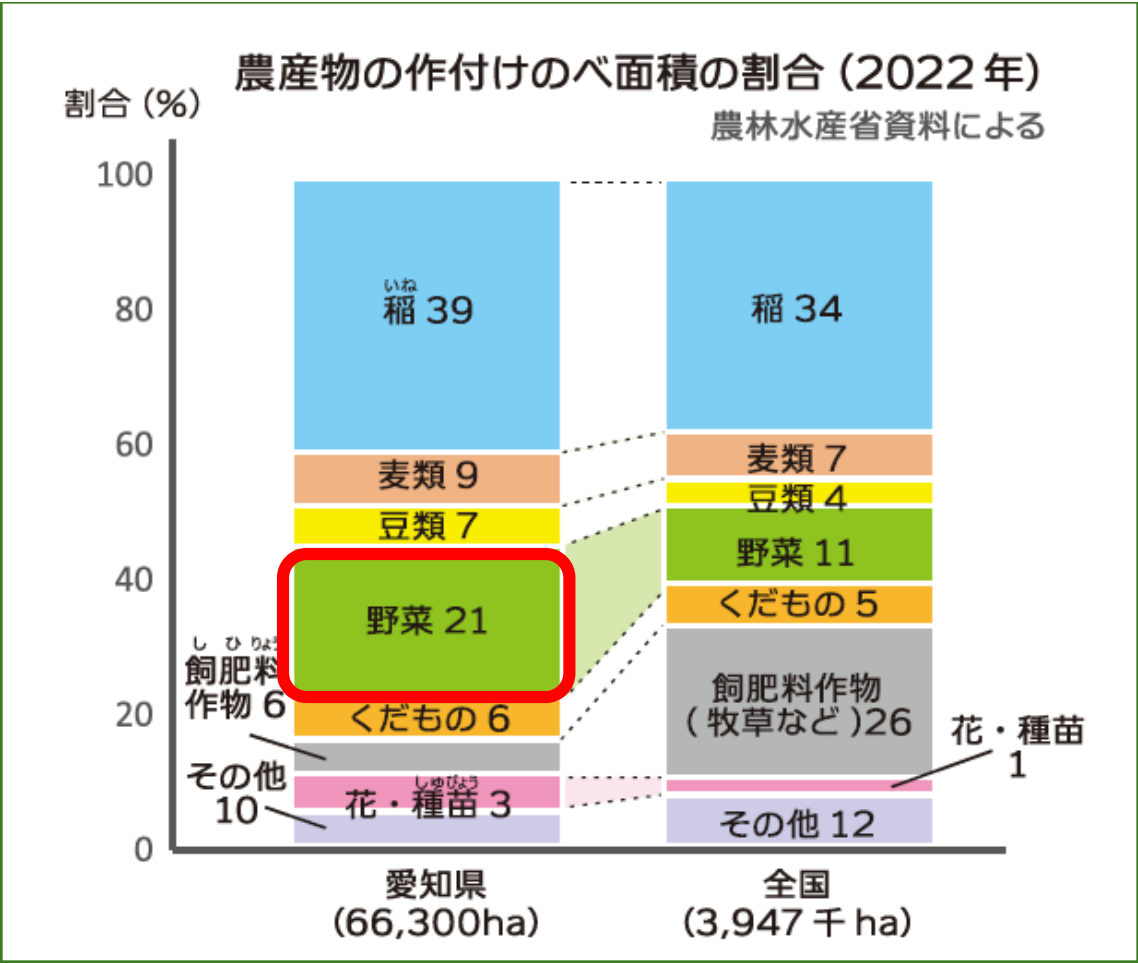
- 愛知県農業、組織概要、支援体制
1 組織概要
- 支援対象農家、支援の全体像、支援の流れ
2 支援の全体像
- GAPとは、取組目的、全体像、農場整備、研修
3 JGAP認証の取得支援
- 全体像、JAグループの特徴
4 JA総合事業支援
- ESG金融に対する課題、苦労・工夫した点、関係機関との連携
5 支援のポイント
- 支援の成果、今後の展望
6 支援の成果・今後の展望

1-1. 愛知県の農業

農業産出額は全国 8 位

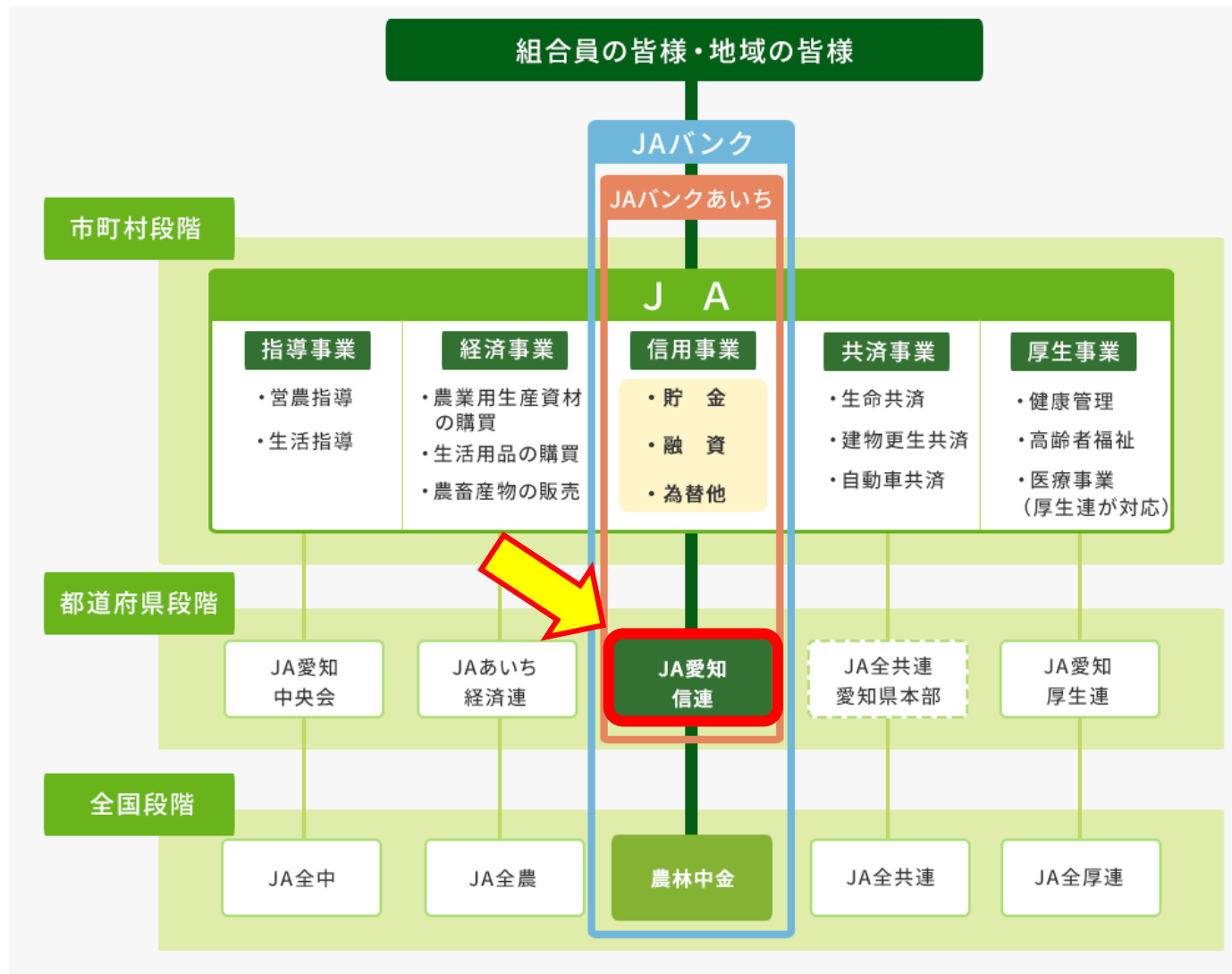


作付け延べ面積の 2 割は野菜



出典：『愛知の農業2025』 J A 愛知中央会

1-2. 組織概要（JAグループ）



系統 3 段階

県内19JA

J A 愛知信連

農林中央金庫

1-3. 支援体制①

食農法人営業部

広域融資
大企業向け

地域融資
食農関連企業向け

農業融資
農業者向け

農業融資グループ

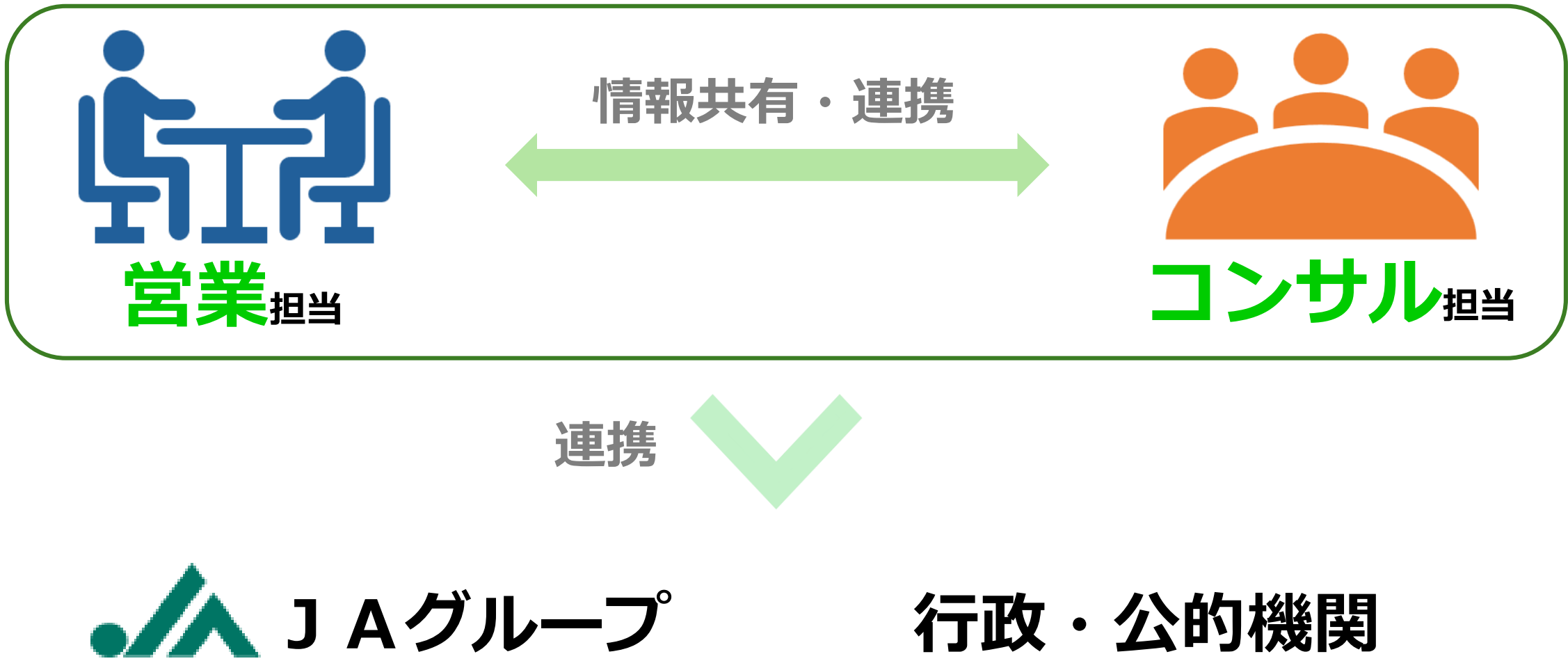
農業融資担当

コンサル担当

令和7年4月
グループ統合

令和7年4月
グループとして独立

農業融資グループの支援体制



- 愛知県の農業、組織概要、支援体制
1 組織概要
- 支援対象農家、支援の全体像、支援の流れ
2 支援の全体像
- GAPとは、取組目的、全体像、農場整備、研修
3 JGAP認証の取得支援
- 全体像、JAグループの特徴
4 JA総合事業支援
- ESG金融に対する課題、苦勞・工夫した点、関係機関との連携
5 支援のポイント
- 支援の成果、今後の展望
6 支援の成果・今後の展望

2-1. 支援対象農家（経営体概要）

概要

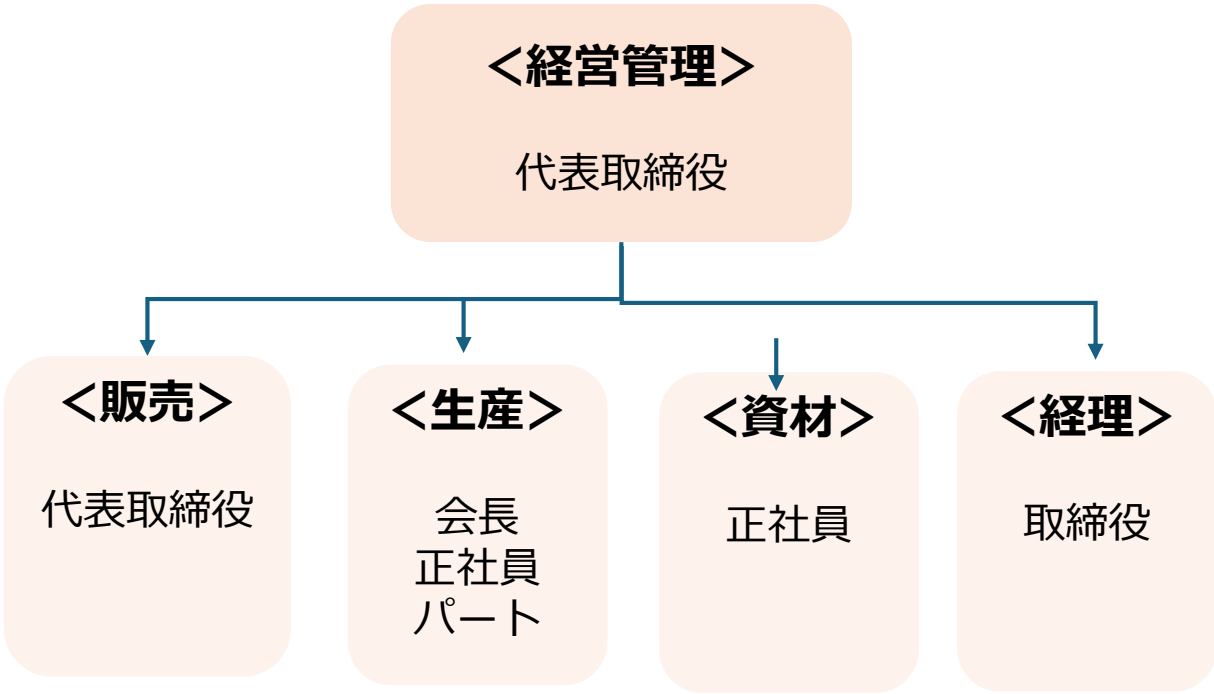
- 江戸時代から代々農業に携わっており、2004年に法人化。
- 2023年に7代目の現代表に事業承継。
- 栽培品目はにんじん、だいこん、キャベツ、白菜の露地野菜 4 品目。
- 販売面において、加工・業務用の契約出荷を主力にしていることが特徴。



経営体概要（令和 7 年 2 月現在）

経営体名	(有)ゴトアグリ
設立年月日	2004年
エリア	愛知県丹羽郡扶桑町 (JA愛知北管内)
主要品目	・露地野菜 4 品目 にんじん、だいこん、キャベツ、白菜
職員構成	・役員 3 名 ・社員 9 名 ・パート約 2 5 名

組織体制



露地野菜 4品目で、春作・秋冬作延べ約60haを栽培

・栽培品目・

木曽川流域に位置する扶桑町の「砂壌土」は非常に根菜類などが育てやすく、さらに独自の有機肥料（堆肥、カルシウムやミネラルをブレンド）で栄養豊富かつ健康に良い、安心・安全の野菜をつくっています。

ダイコン	ニンジン	ハクサイ	キャベツ
			
〈収穫時期〉 春：4月中旬～6月中旬 秋冬：10月下旬～2月下旬	〈収穫時期〉 春：5月下旬～7月上旬 秋冬：11月上旬～1月下旬	〈収穫時期〉 秋冬：11月中旬～2月下旬	〈収穫時期〉 秋冬：11月上旬～4月上旬

出典：当社会社案内

循環型農業

堆肥等の有機肥料を活用

農地保全

緑肥活用・耕作放棄地を引受

『耕作放棄地を優良農地への再生』『機械化による省力化』
『土にこだわった生産性の向上』『契約出荷で計算出来る経営』
を4本の柱とし、地域の農業を守る取り組みにも力を入れています。

こだわり



地域の特性を活かした 安心・安全の農地開拓

江戸時代から農業が引き継がれている扶桑町ですが、高齢化や人手不足を理由に離農する農家さんも多いです。私たちはそんな方々から土地を借り受け、貴重な農地を有効に活用しています。さらに江戸時代から受け継いできた知恵や土壌を活かし、できるだけ化学肥料は使わず、有機肥料を多く使用。JGAPの認定も受け、お子さんも安心して食べられる高品質な野菜を手がけています。

農業を守るため、 未来型露地野菜経営の確立を目指す

扶桑町は作物栽培に最適な土壌ですが、宅地の増加により農地が縮小されているのも現状です。そこで私たちは、

『耕作放棄地を優良農地への再生』『機械化による省力化』
『土にこだわった生産性の向上』『契約出荷で計算出来る経営』
を4本の柱とし、地域の農業を守る取り組みにも力を入れています。





2-4. 支援の全体像

1

JGAP認証の取得支援

(令和3年6月～令和5年11月)



販売力強化
生産性向上

2

JA総合事業支援

(令和3年10月～現在)



経営発展に向けた
諸課題への対応

○ 支援の流れ



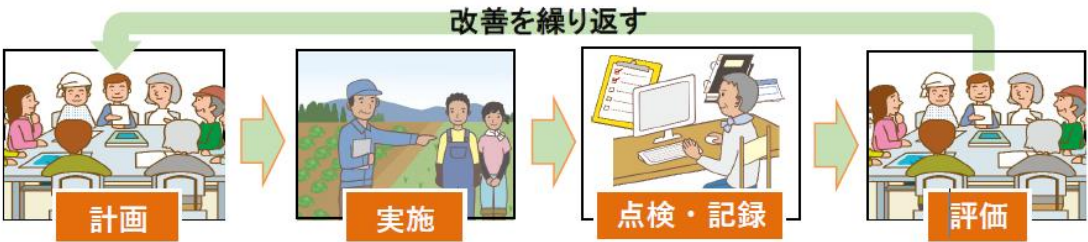
- 愛知県の農業、組織概要、支援体制
1 組織概要
- 支援対象農家、支援の全体像、支援の流れ
2 支援の全体像
- GAPとは、取組目的、全体像、農場整備、研修
3 JGAP認証の取得支援
- 全体像、JAグループの特徴
4 JA総合事業支援
- ESG金融に対する課題、苦労・工夫した点、関係機関との連携
5 支援のポイント
- 支援の成果、今後の展望
6 支援の成果・今後の展望

3-1. GAPとは

GAP（ギャップ）とは

①必要性

- GAP（Good Agricultural Practices：農業生産工程管理）は、農業生産の各工程の実施、記録、点検及び評価を行うことによる持続的な改善活動のこと。
- 農林水産省では、「食品安全」、「環境保全」、「労働安全」、「人権保護」、「農場経営管理」の5分野を含むGAPを国際水準GAPと呼称し、ガイドラインを策定し普及を推進している。



国際水準GAPの5分野

食品安全	環境保全	労働安全	人権保護	農場経営管理
(取組事項の例) ・食品安全に係るリスク管理 ・使用する水のリスク管理 ・異物混入の防止 ・農薬の適正使用と記録 ・農産物取扱施設の衛生管理 集出荷作業における服装(マスク、布巾・手袋等の着用)のルール化	(取組事項の例) ・環境負荷に係るリスク管理 ・温室効果ガス削減の取組 ・土づくりや施肥設計を通じた土壌管理 ・総合的病害虫・雑草管理(IPM)の実施 ・廃棄物の適正処理・利用 農薬空容器は分別して処理	(取組事項の例) ・労働安全に係るリスク管理 ・機械・設備の点検・整備 ・作業安全用の保護具の着用 ・農場内の整理整頓、清掃 ・農薬の適切な取扱と保管 危険な作業はスイッチを止めてから行う(巻き込まれ防止)	(取組事項の例) ・労働者への労働条件の提示と遵守 ・家族間の十分な話し合いに基づく家族経営の実施 ・技能実習生等の受入に係る環境整備 掲示物には外国人技能実習生の母国語を併記	(取組事項の例) ・基本情報の整理 ・業務毎の責任者の配置と農場ルールの策定 ・トレーサビリティの確保と記録の作成・保存 ・クレームへの対応手順の策定 ほ場等の情報を地図とともにパソコンで整理

2

出典：『GAPをめぐる情勢』農林水産省

農業者自らがSDGsやESGに貢献できる取組み

JGAP
の取組を通じて



販売力強化
生産性向上
を目指す

取組み	内 容	結びつく SDGs 目標とターゲット
 農場管理	生産工程管理による手順を見える化し、適切な農場管理を行います。	2.4 持続可能な食料生産システムを確保し、強靱な農業を实践する。 8.4 世界の消費と生産における資源効率を改善させ経済成長と環境悪化の分断を図る。
	役割分担を明確にし、働きがいのある職場環境を作ります。技術的なスキル向上のために、作業者に教育の機会を設けます。	4.4 技術的・職業的スキル、雇用、働きがいのある人間らしい仕事を増加させる。
	持続可能な農業、環境への負荷、社会のニーズを考慮した農畜産物を提供します。	12.8 持続可能な開発及び自然と調和したライフスタイルに関する情報と意識を持つようにする。 17.17 効果的な公的、官民、市民社会のパートナーシップを奨励・推進する。
	災害に備えた農業生産に取り組みます。	13.1 気候災害や自然災害に対する強靱性及び適応力を強化する。
 食品安全	工程ごとにリスク評価と対策をして、安全な農畜産物の生産を提供します。	2.1 安全かつ栄養のある食料を十分に得られるようにする。
	水、土、肥料、飼料、農薬、動物用医薬品など使用する資源の安全を確認し、適切な管理を行っています。	3.9 有害化学物質、大気、水質及び土壌の汚染による死亡及び疾病の件数を大幅に減少させる。
		12.4 人の健康や環境への悪影響を最小化するため、化学物質や廃棄物の大気、水、土壌への放出を削減する。

JGAP認証の取得にかかわる主な支援内容

圃場情報管理



圃場管理システムの活用支援（全農）

農場整備



農薬保管庫・出荷場の整備（JA・普及課）

研 修



外部研修の紹介
当社向け研修会の設定（県・GAP指導員）

伴走支援



課題検討会を通じた取組推進（JA・普及課）

3-4. 支援事例①：農場整備（農薬保管庫）

before



after



標識の掲示

危険度別、種類別に
取扱ルールを設定

整理整頓

定位置の設定など
置き場を区分

食品安全の向上に加え、
生産性の向上にも寄与

研修会

JA・行政と連携して開催

知識向上

座学・現地指導を交え

GAP現地研修会のご紹介

愛知県では国のGAP拡大推進加速化事業（交付金）を活用して、国際水準GAPの認証取得やGAPの取組に関心のある法人や生産者グループを対象に、コンサルタント派遣によるGAP現地研修会を開催しています。

令和5年度：尾張 法人（野菜）

令和3年度：新城設楽 生産者グループ3戸（茶）

西三河 生産者グループ10戸（水田作）



講義風景（『JGAP実践講座』）



現地指導風景

愛知県農業水産局農政部農業経営課

関心のある方は最寄りの農業改良普及課又は農業経営課（TEL：052-954-6411）へお問い合わせください。

出典：愛知県からの資料提供

- 愛知県の農業、組織概要、支援体制
1 組織概要
- 支援対象農家、支援の全体像、支援の流れ
2 支援の全体像
- GAPとは、取組目的、全体像、農場整備、研修
3 JGAP認証の取得支援
- 全体像、JAグループの特徴
4 JA総合事業支援
- ESG金融に対する課題、苦勞・工夫した点、関係機関との連携
5 支援のポイント
- 支援の成果、今後の展望
6 支援の成果・今後の展望

J A 総合事業力を発揮した主な支援内容

経営診断



財務診断、経営者ヒアリング等を通じた課題整理

販路拡大



ビジネスマッチング（販路紹介）（JA販売課）

労働力確保



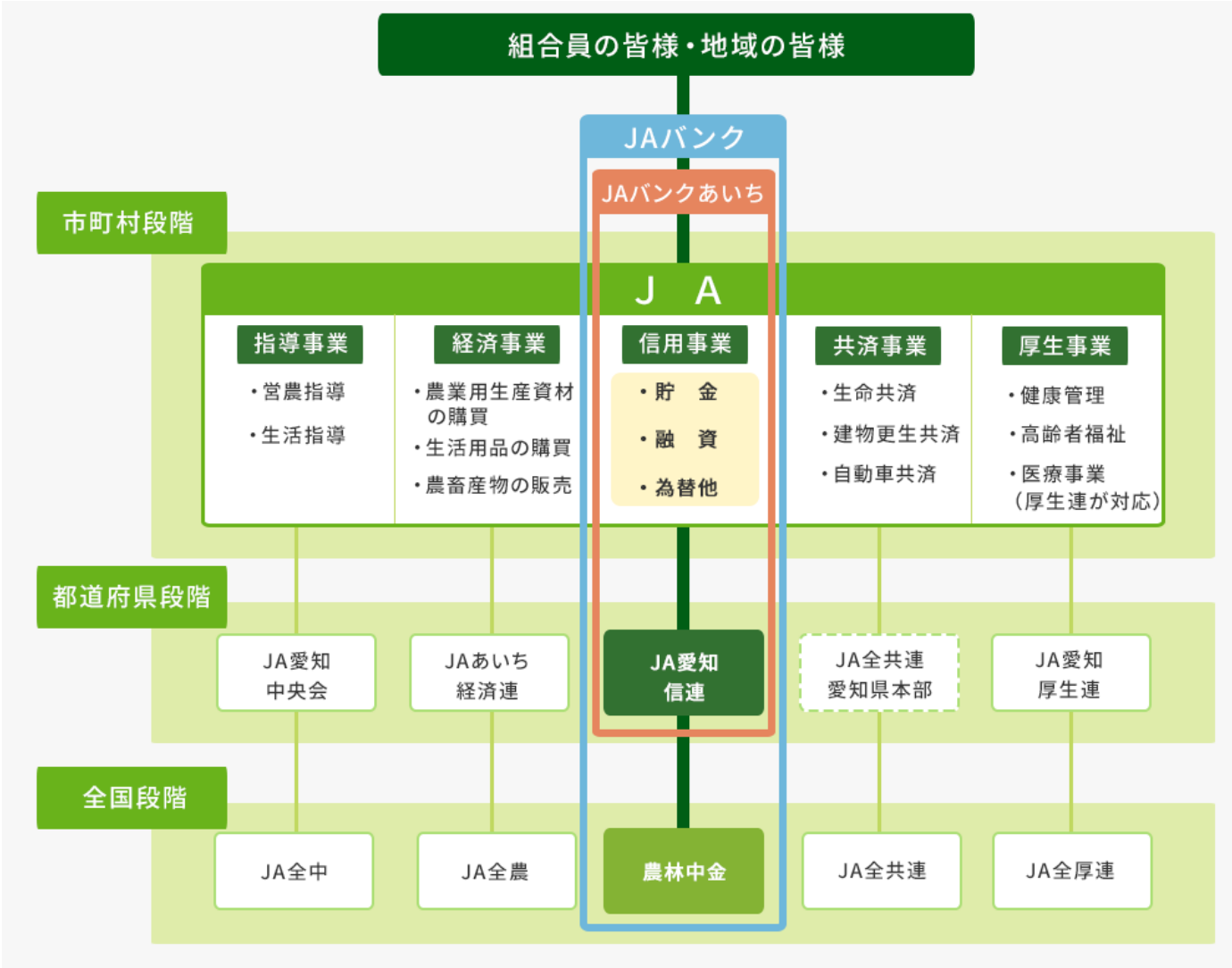
JA無料職業紹介事業の活用（JA営農指導課）

融資・補助金



JA融資、補助金の活用支援（JA支店融資課）

4-2. JAグループの特徴



農家目線の
総合事業力が
JAグループの特徴

- 愛知県の農業、組織概要、支援体制
1 組織概要
- 支援対象農家、支援の全体像、支援の流れ
2 支援の全体像
- GAPとは、取組目的、全体像、農場整備、研修
3 JGAP認証の取得支援
- 全体像、JAグループの特徴
4 JA総合事業支援
- ESG金融に対する課題、苦労・工夫した点、関係機関との連携
5 支援のポイント
- 支援の成果、今後の展望
6 支援の成果・今後の展望

5-1. 支援のポイント（ESG金融に対する課題）

(有)ゴトーアグリ

様々な課題を**把握**



農家の
高齢化

地域の
伝統野菜

耕作放棄地
増加

野菜価格
乱高下

地域農業を
守る

資材価格
高騰

販売先の
要請

従業員
雇用維持

若手従業員
の士気向上

J A 愛知信連

当会と**共通**するテーマ



これからの新たな価値創造に向けた重要テーマ



農業を支える
農業の衰退化に目を向け、
持続的発展・成長産業化への貢献へ



食を守る
食料安全保障の問題に目を向け、
安心・安全な食料供給への貢献へ



社会・環境に配慮する
社会・環境問題に目を向け、
地域社会振興・環境保全への貢献へ



価値創造に尽力する
経済価値と社会価値の創造、
協同組合理念の醸成へ



1 農業所得向上等農業者支援



2 コンサルティング支援



3 事業性評価等による安定した資金提供



4 農産物の販路拡大支援



2 経済・社会・環境に配慮した **サステナブル投資**へ



3 経済・社会・環境の持続性の視点を踏まえた投融資の取組み



4 働き方改革、組織風土改革等を通じた **サステナブル経営の実現**へ



1 多様な人材が活躍できる職場づくりの推進



2 経営方針等の理解浸透に向けた役職員対話会の開催



3 エンゲージメント向上の取組み

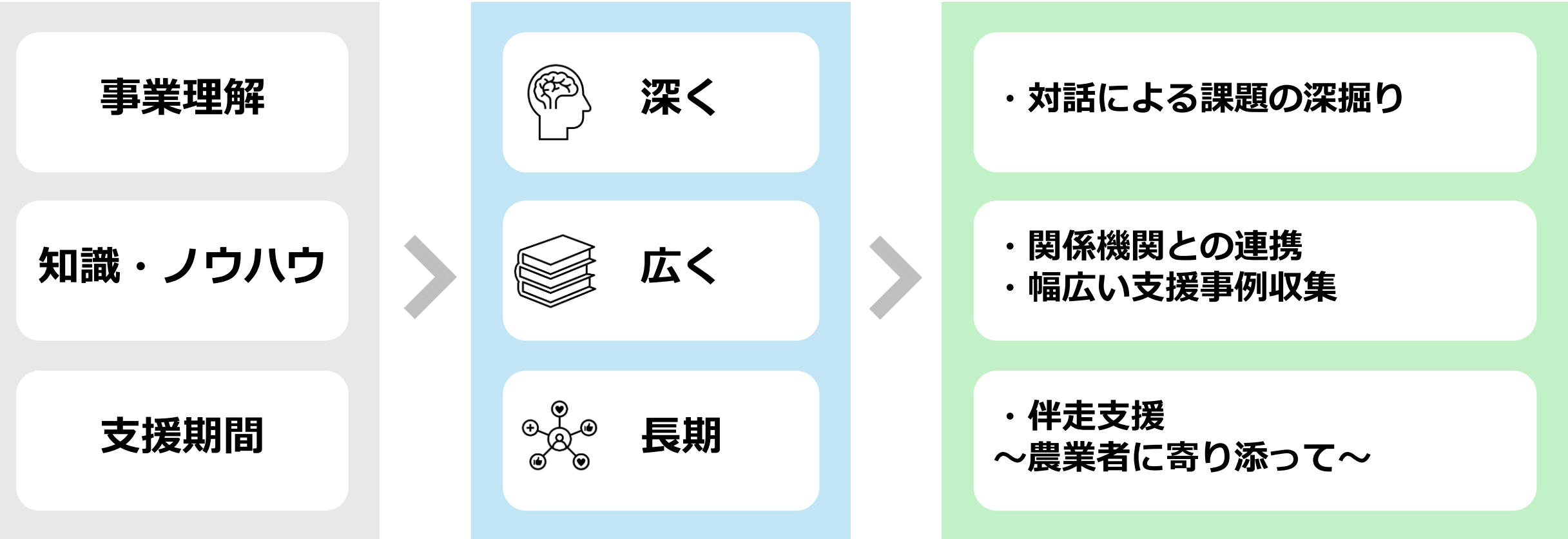


4 SDGs勉強会等の実施

重点支援先
に選定・支援開始

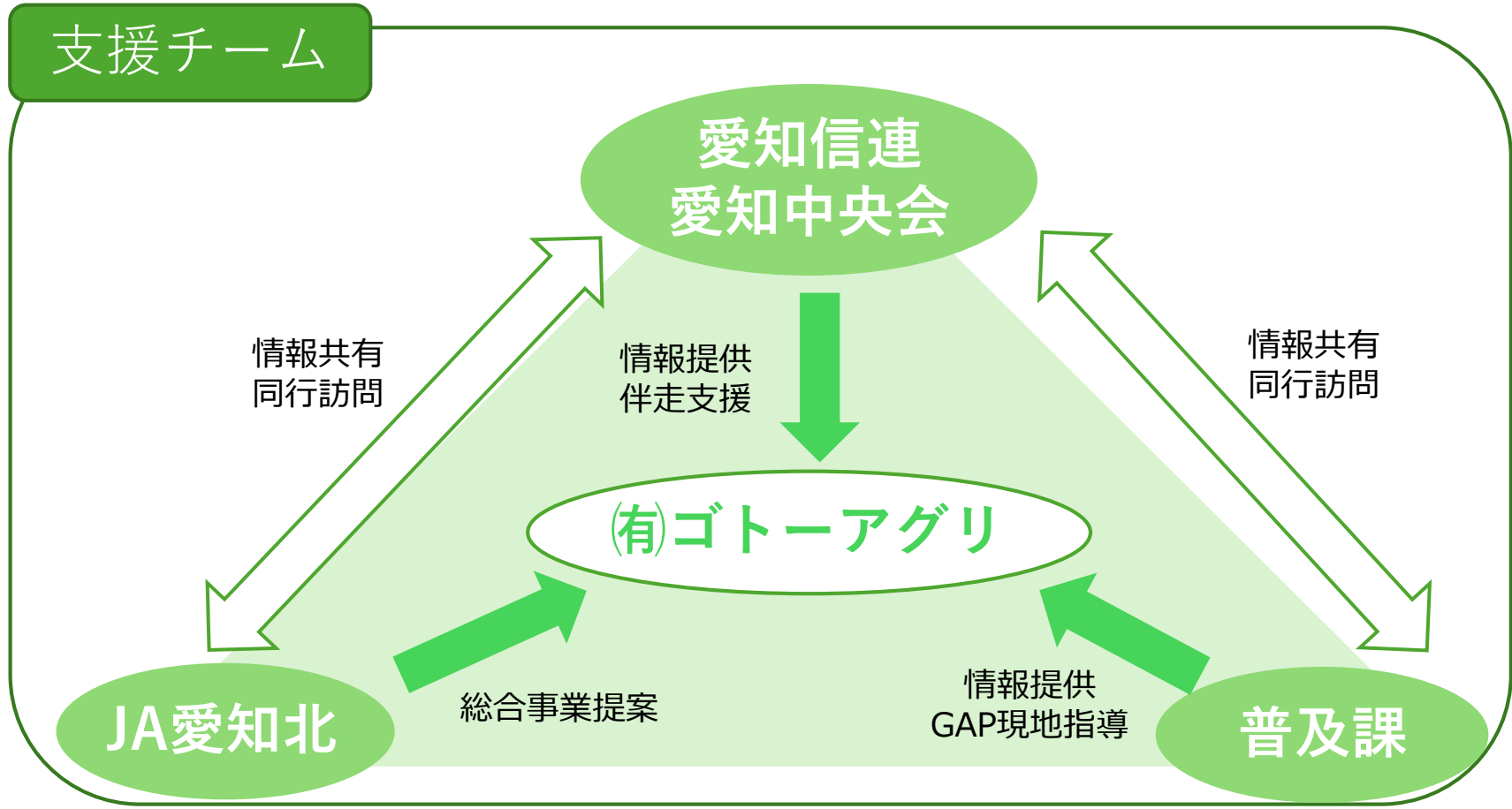
5-2. 支援のポイント（工夫・苦勞した点）

より深く、継続的な**非金融支援**に取組



事業の**理解**、関係機関との**連携**

支援チームの構築



定期訪問により
課題を把握

得意分野を活かし
面的に対応

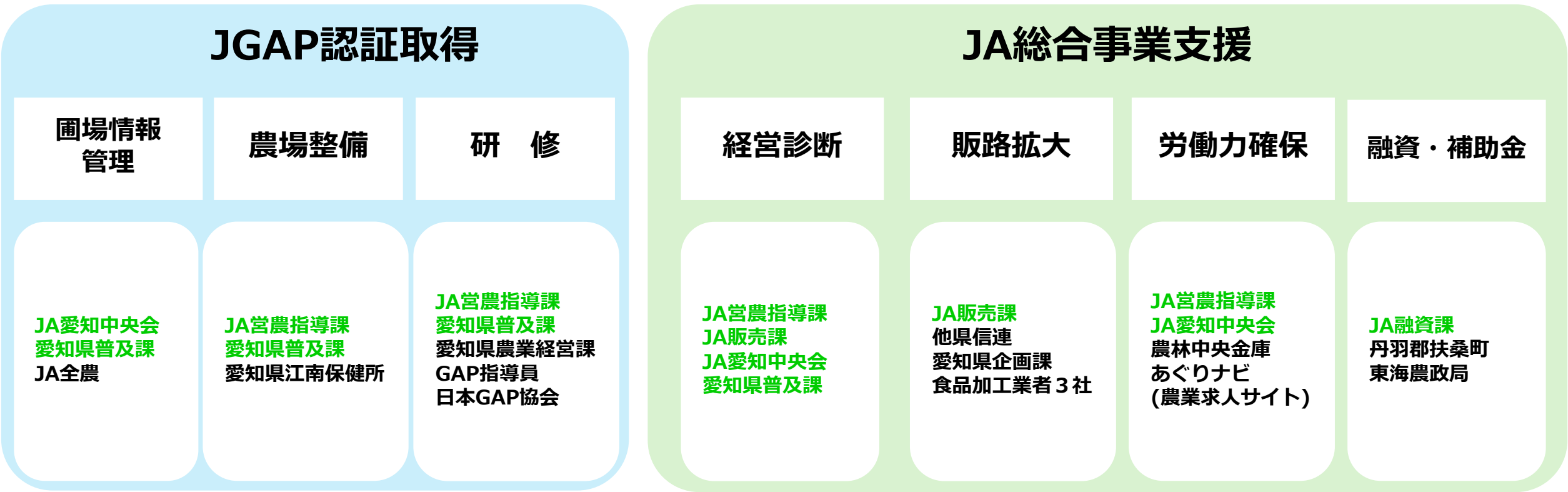
愛知県尾張農林水産事務所
農業改良普及課稲沢駐在室

5-3. 支援のポイント（関係機関との連携②）

支援チームを軸に関係機関と**連携**



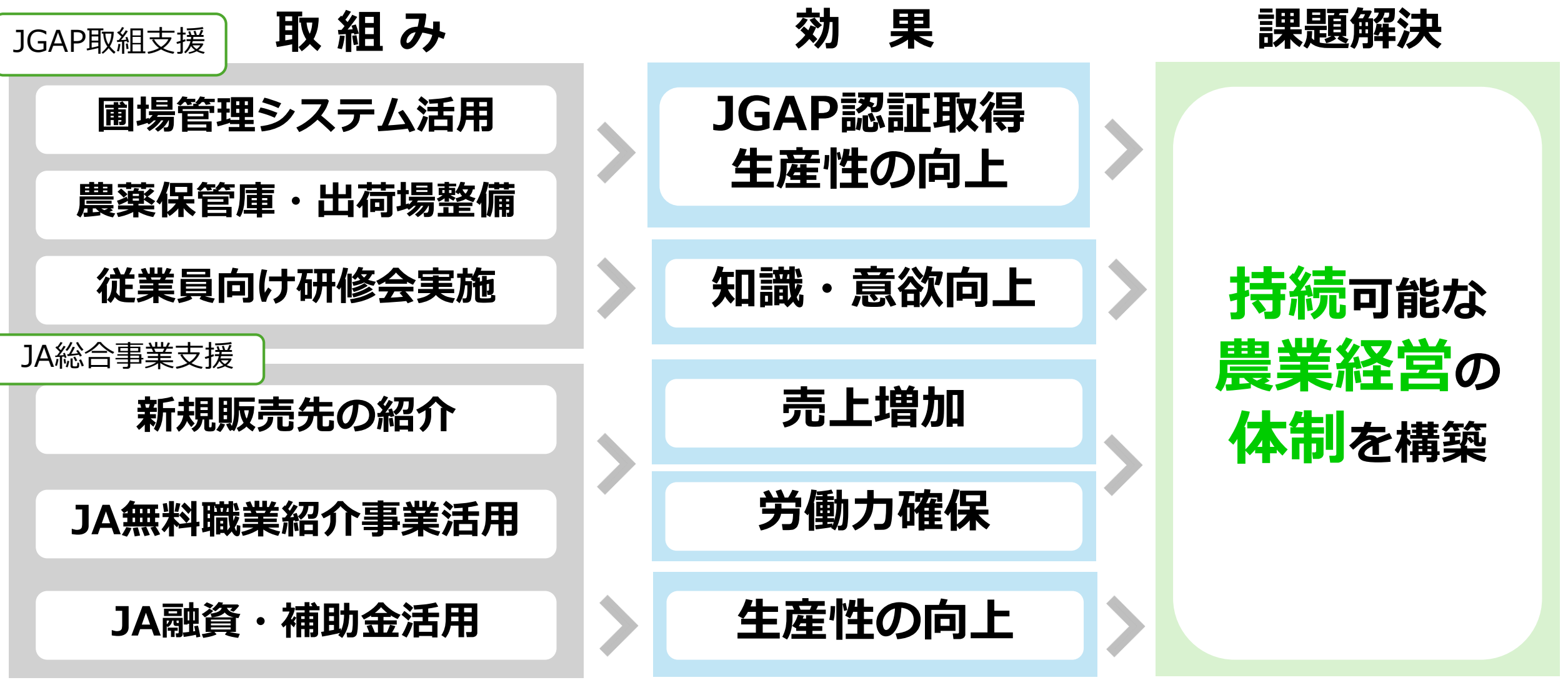
多様化する支援ニーズに対応



- 愛知県の農業、組織概要、支援体制
1 組織概要
- 支援対象農家、支援の全体像、支援の流れ
2 支援の全体像
- GAPとは、取組目的、全体像、農場整備、研修
3 JGAP認証の取得支援
- 全体像、JAグループの特徴
4 JA総合事業支援
- ESG金融に対する課題、苦勞・工夫した点、関係機関との連携
5 支援のポイント
- 支援の成果、今後の展望
6 支援の成果・今後の展望

6-1. 支援の成果（農業者）

農業者の成果



6-2. 支援の成果（当会・地域）

当会の成果

取 組 み

農家所得向上・経営発展

支援ノウハウ蓄積

効 果

地域経済への貢献

経営課題への
対応力強化

課題解決

地域社会
農業振興
への貢献

地域農業・地域社会への波及効果

規模拡大・経営発展の実現

耕作放棄地の抑制

地域農業の振興
地域の雇用創出

農地保全

支援を通じ持続可能な経営体制・農業振興が実現し
ESGにつながる取組みに

6-4. 今後の展望

当社が地域農業に果たす役割が大きくなるなか、
出荷施設の**処理能力が上限**に迫っている

1

目指す姿の見える化



耕作放棄地引受
規模拡大

2

経営発展に向けた 経営課題の検討



出荷施設・組織体制の整備
人材の確保・育成

10年先を見据え、**さらなる経営発展**への歩みを支援していきます

経営理念

J A 愛知信連は J A とともに
地域農業と地域社会の
豊かな未来を創造します

今後も農業者への経営発展支援を通じ
地域農業の維持・発展
に貢献していきます。

ご清聴ありがとうございました。